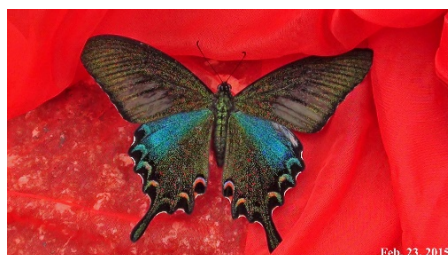


沖縄・八重山諸島に生息するカラスアゲハはオキナワカラスアゲハ(*Papilio okinawaensis*)とヤエヤマカラスアゲハ(*Papilio bianor junia*)の2種で、生息地が遠く離れていることから同定を間違えることはない。沖縄本島には、初めて訪れた1993年以降、1995,1996,1997,2002,2006,2013年と7回も行っているのに、なぜか蝶紀行にオキナワカラスアゲハに関する記述が一つもなく、沖縄から石垣島へと転戦した1995年11月の紀行文に「初めて石垣島にやってきた男性が、翅が傷んだヤエヤマカラスアゲハを夢中で追う様子に、その気持ちはよく分かる」としているのが、本種に関する初の記述となっている。結局、初めての出会いを果たした時期や場所は分からない。最も印象に残っているのが、石垣島のオモト林道で2頭のヤエヤマカラスアゲハが仲良く縦に並んで休息していた情景で、すぐにビデオ記録を撮ろうとしたのだが、その気配を察したのか2頭ともに飛んでしまったこと。あの情景は脳裏に深く刻まれており、昨日のことに思い出すことができる。

2015年2月には、スペインや台湾のFacebook蝶友に標本として送ることを目的に、本種の新鮮個体を複数採集するべく石垣島を訪れ、妻の協力も得てみずともに、比較的きれいな個体を採ることができた。このチョウの自然状態での撮影にも努めたが、遠くのシロノセンダングサで吸



蜜するところをなんとか記録し、バナナ公園の周回道路沿いに連なるサンダンカの生け垣で、ようやくオス個体が開翅状態で蜜を求めるところを撮影できた。2月という時期の八重山諸島訪問は初めての経験だが、ヤエヤマカラスアゲハがここまで緑色の鱗粉が濃くて美しいことにこれまで全く気づいていなく、羽化直後の新鮮個体ではさぞかし美しいことだろう。



Feb. 22, 2015
石垣島オモト林道
leg. Yoshiko Shimazaki



Feb. 22, 2015
石垣島オモト林道
leg. Yoshiko Shimazaki